

『父と神だな』

毎日、わたしの父は神だなに「いつもありがとうございます。今日も一日よろしくおねがいます。」と言っている。見守ってくださっている神様に感しゃの気持ちをわすれないように、毎日おまいりをするそうだ。神だなについてくわしく知りたくなり、調べてみた。神だなにおそなえすること。水、米、しおなどをおそなえし、おふだをおまつりすることを知った。

十二月に父と一緒に神だなをそうじした。神だなはいつも見えない場所にあるけれど、はじめて近くで見ることができた。神だなの意味をしたので、心をこめて、一年の感しゃの気持ちを伝えて、そうじをした。そして、元日には、「また一年見守ってください。」と新しいおふだをまつた。思い出すのもいやなくらいのいやなけいけんをしたのは、その後だった。わたしはあの地しんの時、ひ見の海岸近くにあるそ父母の家にいた。そ父母の家はかべがどんどんくずれてきた。テレビもたおれた。そ母はストープの上のやかんが落ちて、やけどをした。大つなみけいほうが出て、もうダメだと思った。でも家がこわれたり、そ母がやけどをしたりしたけれど、家族みんなが生きていられるのは神様が見守ってくれたからかもしれない、と思った。

昨年の鎮守の杜作文コンクールの表しよう式のこうひょうの中で、「神社はとくべつなときだけさんばいするのではなく、日ごろから通ってください。今日もこのあと、表しようされたことをぜひほうこくしに行ってください。」とおっしゃっていた。その日には行けなかつたけれど数日後にうじ神社をさんばいし、表しようされたことをほうこくしてきた。なかなか毎日のように神社にほうこくに行くことはむずかしい。だから、わたしも父のように神だなに毎日感しゃのきもちをもって、あいさつをして、その日のほうこくをしようと思った。神だなの意味を知り、父の思いを聞き、神様が近くに感じるようになった。